

舗装長寿命化修繕計画（案）について

1. 計画策定の経緯

市道の舗装道路は令和7年3月末現在で延長約400kmに及び、老朽化による劣化の進行や冬季の厳しい気象条件により損傷が発生しやすい環境にあることからこれまで以上に効率的かつ効果的な維持管理が求められています。

恵庭市では平成28年度に「恵庭市幹線道路等舗装補修計画」を策定し、幹線道路の舗装補修を実施してきましたが、計画策定から9年を経過し市街地開発等による道路環境の変化に伴う劣化状況の変動及び生活道路においても広範囲で老朽化が進行していることから、定量的な損傷度合を基にした維持管理が必要となっています。

2. 計画の目的

道路環境の変化や膨大な距離の道路が経年劣化していく状況下において、限られた財源の中で計画的に舗装道路の維持修繕を推進していくため「損傷度の把握」、「道路分類毎の管理水準」、「損傷度に応じた修繕・補修の方針」を定めた「舗装長寿命化修繕計画」を策定し、維持修繕費用の平準化及び中長期的なコストの縮減図り、将来にわたり安全・安心な道路の利用を確保することを目的としています。

3. 概要

（1）計画対象施設

幹線道路： 38路線 L = 87.8km

準幹線道路： 48路線 L = 52.8km

生活道路： 1189路線 L = 261.6km

（2）策定作業工程

①道路点検調査：アクションカメラによる路面撮影

- ・道路パトロールカーにカメラを設置し、道路巡視時等に撮影



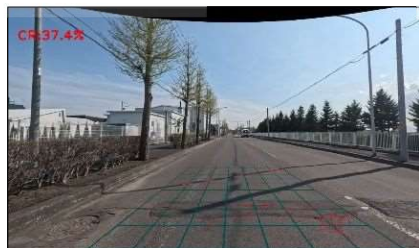
通常の走行速度での撮影が可能。

GPSと連動させることにより撮影箇所の位置情報と紐づいた映像データの取得ができる

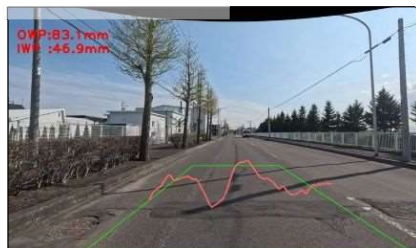
② 損傷度解析：A Iシステムによる撮影動画の解析・評価

・ 室蘭工業大学で開発研究しているA Iシステムによる解析・評価

【ひび割れ測定】



【わだち掘れ測定】



【健全度評価】



③ 計画検討：評価結果を基に管理水準・補修方法、優先度の設定

・ 道路の種別ごとに管理水準・修繕優先路線を設定

○ 幹線道路

<div>低</div> <div>損傷度</div> <div>高</div>	MCI	MCI=6以上	—	—	—	—
		MCI=3~5	5位	6位	7位	8位
		MCI=3未満	1位	2位	3位	4位
		緊急輸送路	避難路	重要路線	その他幹線道路	
		幹線道路				
		高	重要度		低	

走行の安全性が求められる路線であることから管理指標を「MCI」とし、損傷度と道路の役割に応じて修繕優先度を設定

○ 準幹線道路

<div>低</div> <div>損傷度</div> <div>高</div>	MCI	MCI=6以上	—	—
		MCI=3~5	3位	4位
		MCI=3未満	1位	2位
			重点路線	その他
		準幹線道路		
		高	重要度	低

走行の安全性が求められる路線であることから管理指標を「MCI」とし、損傷度と道路の性格に応じて修繕優先度を設定

○ 生活道路

低 損傷度 高	ひび割れ率	60%未満	—
		60%以上	3位
		75%以上	2位
		85%以上	1位
		生活道路	

構造的な破壊の目安となる「ひび割れ率」を指標とし、損傷度合より優先順位を設定。

※MCI:「ひび割れ率」,「わだち掘れ量」,「平坦性」の3つの要因を組み合わせた舗装の損傷度を総合的に評価した指数。
数値が高いほど健全な状態。

4. 計画期間

令和8年度～令和17年度（10年間）

5. 今後のスケジュール

（1）パブリックコメント 令和7年12月15日（月）～ 令和8年1月23日（金）

恵庭市舗装長寿命化修繕計画（案）について、恵庭市パブリックコメント制度実施要領に基づき、市民から広く意見及び提言、情報等を募り計画の充実を図る。

（2）計画策定・公表 令和8年3月下旬（予定）

パブリックコメントにより提出された多様な意見等について、計画への反映を検討し、恵庭市舗装長寿命化修繕計画の策定を行う。

6. 計画策定にあたって

本計画の作成業務は室蘭工業大学と共同事業により実施しており、舗装の劣化度調査について同大学が開発研究しているAI解析システムにより「ひび割れ」、「わだち掘れ」、「平坦性」の解析及び健全性の評価を行っております。

また、当該事業は、エアウォーター北海道が道内市町村を対象に実施している「ふるさと応援英知プログラム」の寄付金事業により実施されております。